



昭和20年(1945)三河地震で発生した  
宗徳寺の地割れ(蒲郡市)



津波により本尊の延命地蔵尊が漂着した  
という言い伝えがある東漸寺(豊川市)



# 歴史地震記録に学ぶ 防災・減災ガイド

東三河編

先人たちが伝えようとしたことに、  
耳を傾けてみんなのお



明治24年(1891)濃尾地震と翌年の暴風雨によって壊滅した新田を買い取り、  
神野新田を開拓した神野金之助の頌徳碑と、新田堤防沿いに建立された護岸観音(豊橋市)



嘉永7年(1854)安政東海・南海地震による津波を契機に、貝やかきの殻を積み上げてつくられた津波除けの海岸堤防『かいがらぼた』(田原市)



宝永4年(1707)宝永地震、嘉永7年(1854)の安政東海・南海地震で石垣等の破壊の記録が残る吉田城(豊橋市)



嘉永7年(1854)安政東海地震による津波の様子が描かれた御厨神社の絵馬(豊橋市)



\*このパンフレットは、市町村誌や体験談集など地域に残る記録を参考にして作成したもの



1

No	豊橋市	碑 史跡	エリア
1	前芝神明社	C6	
2	前芝町付近	C6	
3	神野新田*	○ C7	
4	八柱神社(八王子大明神)	○ C8	
5	高須新田	C6	
6	正行山專願寺	C6	
7	川崎神明社	C6	
8	吉祥院	C8	
9	栄昌寺	C6	
10	進雄神社	C6	
11	医王寺(薬師如来仏)	○ C6	
12	歡喜寺	C6	
13	日吉神社	C6	
14	菰口神明社*	C6	
15	満光寺	D6	
16	花田町付近	D6	
17	ささゆりの里(震災鎮めの石碑)*	○ D8	
18	法藏寺(馬頭観音)*	○ D8	
19	潮音寺	D7	
20	神宮寺(願かけ地蔵)*	○ D6	
21	時習館	D6	
22	吉田城*	D6	
23	龍拈寺(観音像)*	○ D6	
24	安久美神戸神明社*	D6	
25	菟頭神社(戸とうの宮様)*	○ D8	
26	秋葉山常夜燈	D6	
27	大村八所神社*	D6	
28	御厨神社(絵馬)*	○ D7	
29	東漸寺(行者塔)	○ D7	
30	進雄社	D7	
31	東觀音寺*	○ D7	
32	正法寺	D7	
33	小島神社	D7	
34	大応寺	D7	
35	二川の鳥居	D7	
36	眞月寺	D7	

2

3

4

5

6

7

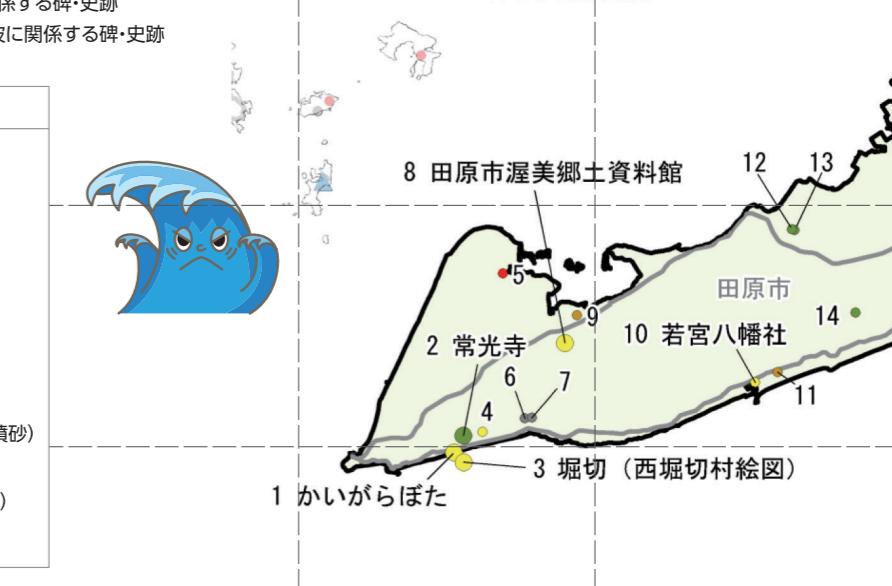
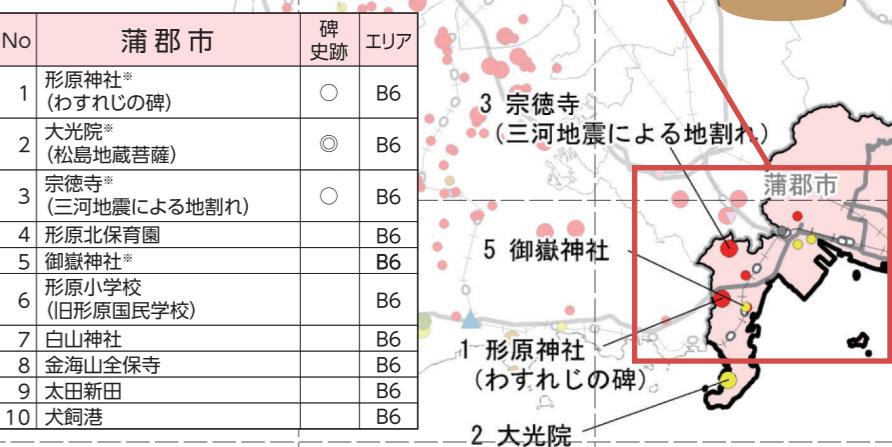
8

9



A

B



※ : 解説ページあり  
注) 田原市渥美郷土資料館所蔵

○ : 地震に関係する碑・史跡  
◎ : 地震・津波に関係する碑・史跡

## 凡 例

### ○ 地震・津波関係

- 碑・史跡 被害記録のみあり
  - 宝永 4年(1707)宝永地震
  - 嘉永 7年(1854)安政東海・南海地震
  - 明治24年(1891)濃尾地震
  - 昭和19年(1944)昭和東南海地震
  - 昭和20年(1945)三河地震
  - その他(年代不明を含む)
  - △ 遺跡調査時に確認された地震痕跡(砂脈・噴砂)

- ▽ (断層)  
★ (地割れ)

### ▲ 高潮・波浪関係

# 災害を今に伝える史跡など

## 新城市、設楽町、東栄町、豊根村

### 設楽町の被災状況

設楽町誌には、明治24年(1891)濃尾地震の際には、山から落石があったこと、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際には、校庭に割れ目が生じるほどすごさであったことが記載されています。濃尾地震の体験談では、「家が倒れたり、火災が起ったようなことはありませんでしたが家のなかでは生活で出来ず、戸外で稻刈りの済んだ田の中に、雨戸を置き、むしろ敷いて、その上で生活しました」とあり、家屋の被害があったことも想像されます。



### 豊根村の被災状況

宝永年間(1704~1710)の大地震では、畑を全滅させるほどの打撃を受けたことが、豊根村誌に記されています。また、享保3年(1718)の大地震では、山崩れのため田畠に石砂があり、作物が大被害を受け、飢饉となっています。村では、度重なる飢饉の教訓を生かして、食料の備蓄をするようになり、個人でも紡・野老(ところ)・ワラビ・ゼンマイ・イタドリ・ホウイモ・トチの実・クリの実・コゴミ・里芋のタツなどを貯(かまつ)め、藁(あわ)しろを二つ折りにして作った袋(ふくろ)や俵(ひょう)に詰め天井裏に保存したようです。

### 新城市的被災状況

南設楽郡誌には、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の際に家屋の倒壊・山崩が多くあり、庭内に地震小屋を建てて数十日間過ごしたことが記載されています。新城町誌には、この地震の際に、家屋が幾棟か倒壊したこと、ことが記載されています。明治24年(1891)濃尾地震の際の状況については、「壇壁・道路・垣・家屋等に若干の破損があった位」(南設楽郡誌)とあり、昭和20年(1945)三河地震の際の状況については、「器物が落ち、時計が止まる程度で損害はなかった」(長篠村誌)とあります。鳳来町で濃尾地震を体験した方の体験談(聞き取り)によると、「対岸の急峻な山の中腹より、大小の岩石ががらがらと音をたてて巴川に落下した」とあり落石も発生しています。過去の地震の際には、このような被害を受けていますが、被害は全体としては軽微であったようです。

#### ● 清嶺小学校(旧清崎小学校)

所在地:北設楽郡設楽町清崎 清嶺小学校  
交 通:JR飯田線「大海」より北約20km

#### ● 島田陣屋遺跡

所在地:新城市野田字西郷  
交 通:(現在は埋め戻され、見ることはできません)

昭和19年(1944)昭和東南海地震では、清崎小学校の新校舎前にあったプラタナスの根元に割れ目が生ずるほどすごさであったといいます。現在小学校は合併により、清嶺小学校と名を変えています。

# 災害を今に伝える史跡など

## 蒲郡市

### 蒲郡市の被災状況

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震では、建物の倒壊や、津波による流失がありました。また新田の堤防や流失がありました。昭和19年(1944)昭和東南海地震でも、建物の倒壊がありました。昭和20年(1945)三河地震では道路や田畠に亀裂を生じました。金平町では1.5mの隆起を生じ、水田に断層・地割れができました(宗徳寺北側の雑木林の地割れは、市指定天然記念物として保存されています)。



#### ● 形原神社(わすれじの碑)

所在地:蒲郡市形原  
交 通:名鉄蒲郡線「形原」より北西約1km

三河地震記念事業により、形原地区に、慰靈碑が建立されました。

この碑は、三河地震の大災害を受けて、33年目を記念して建てられたもので、「犠牲者の靈を慰め、且つまた後の世の戒めともしたい」という有志の願いが込められています。

#### ● 御嶽神社(わすれじの碑)

所在地:蒲郡市形原  
交 通:名鉄蒲郡線「形原」下車すぐ

「御嶽神社日誌」には、嘉永7年(1854)の安政東海地震では、神社の壇、石燈籠、周辺の家が崩れたこと、津波で家が流失したことなどが記されています。また、32時間後に起きた安政南海地震では、西南の方向から大きく響いてきた雷のような音への恐怖から西浦町の住民が小高く安全な場所に避難したことなどが記されています。

#### ● 宗徳寺(三河地震による地割れ)

所在地:蒲郡市一色町  
交 通:JR東海道本線「三ヶ根」より南約2km

三河地震の際に、深溝断層に沿ってできた地割れです。蒲郡市の天然記念物に指定されています。天然記念物指定時には延長41mでした。隆起のため1.5m持ちあがってしまった番神堂は改修の上、現存しています。

#### ● 大光院(松島地蔵菩薩)

所在地:蒲郡市西浦  
交 通:名鉄蒲郡線「西浦」より南約3km

「西浦町の昔と今」には次のようなことが記されています。嘉永7年(1854)の安政東海・南海地震による大津波で、松島に繁茂していた多くの松の木と木も、地蔵菩薩も流失していました。流失した地蔵菩薩には、数々の靈験が物語られ、橋田地区の人々に厚く信仰されていました。その後、バラバラになっていた地蔵菩薩の胴体が、地曳き網や打瀬網で拾われ、縁の元である大光院に移されました。この地蔵菩薩は現在、大光院入口石段の下段の場所に鎮座されています。

#### ○ 地震・津波関係

● 宝永4年(1707)宝永地震

● 昭和19年(1944)昭和東南海地震

● 嘉永7年(1854)安政東海・南海地震

● 昭和20年(1945)三河地震

● 明治24年(1891)濃尾地震

● その他(年代不明を含む)

#### ▲ 高潮・波浪関係

# 災害を今に伝える史跡など

## 豊橋市



### 神宮寺(願かけ地蔵)

所在地:豊橋市魚町神宮寺  
交 通:豊橋鉄道市内線「札木」より南約150m



### 東觀音寺

所在地:豊橋市小松原町  
交 通:JR東海道本線「二川」より南約5km



### 菰口神明社

所在地:豊橋市菰口町  
交 通:JR飯田線「船町」より南西約900m



### 吉田城

所在地:豊橋市今橋町  
交 通:豊橋鉄道市内線「豊橋公園前」より北約200m



### 菟頭神社(戸とうの宮様)

所在地:豊橋市高塚町宇西方

交 通:豊橋鉄道「大清水」より南東約5km



### ささゆりの里(震災鎮めの石碑)

所在地:豊橋市伊古部町字南椎ノ木谷  
交 通:豊橋鉄道「大清水」より南東約5km



### 法藏寺(馬頭観音)

所在地:豊橋市伊古部町  
交 通:豊橋鉄道「大清水」より南東約5.5km



#### ○ 地震・津波関係

● 宝永4年(1707)宝永地震

● 昭和19年(1944)昭和東南海地震

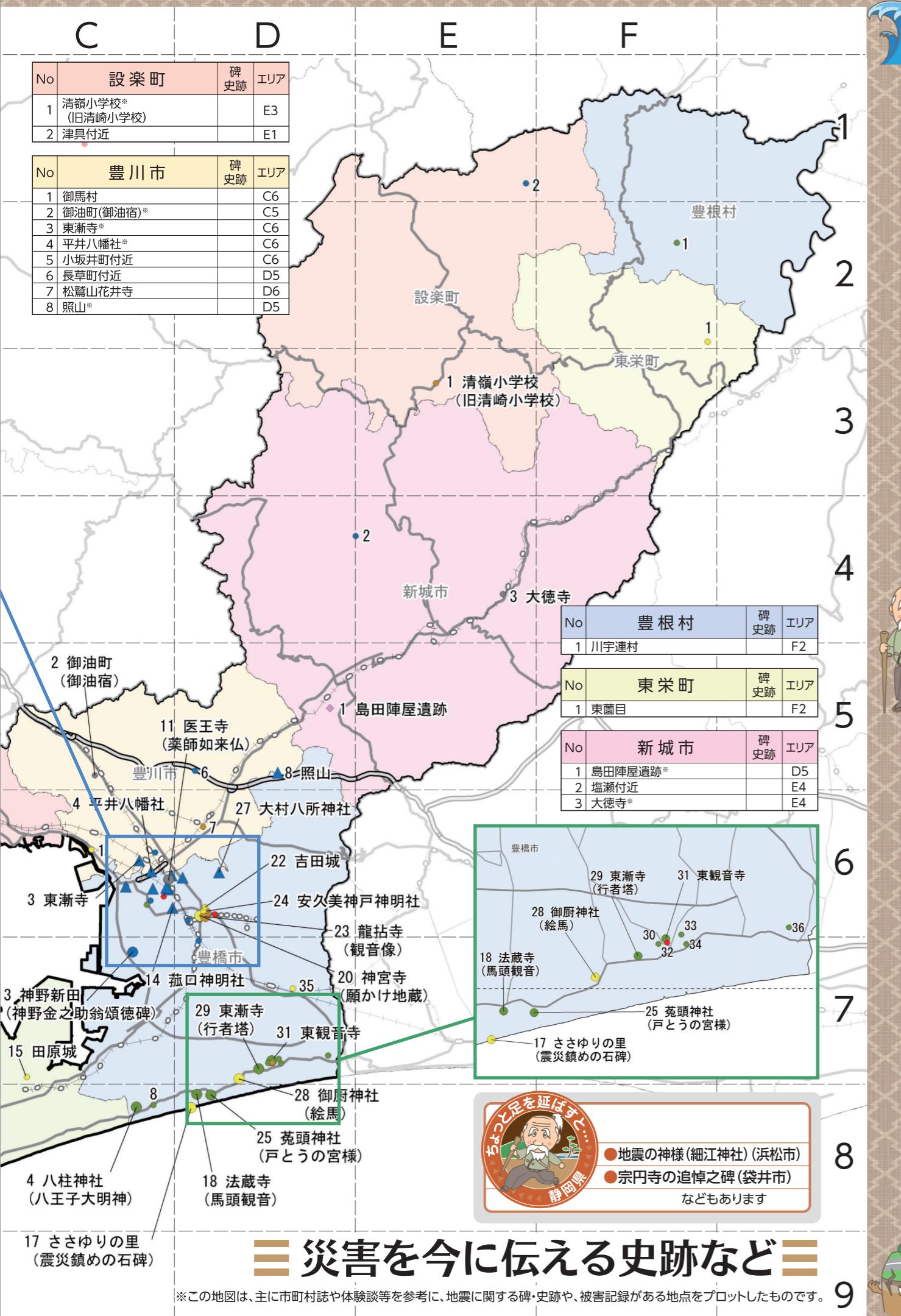
● 嘉永7年(1854)安政東海・南海地震

● 昭和20年(1945)三河地震

● 明治24年(1891)濃尾地震

● その他(年代不明を含む)

#### ▲ 高潮・波浪関係



こんな言い伝えもあります

◆渥美町史によると…

天長4年(827)、この地方に大地震が起り、越津の海岸は大陥没した。美しく湾曲していた磯岩も、脇やかだった家並も半分以上上海底に沈んでしまった。危く難を免れた人々は北へ避難し、地名も現在の小塩津と改めたと伝えられています。なお、正福寺や日吉神社もまたこのころ現在地へ移ったといわれています。



げんさい  
**減齋さん**  
昔の地震のことを、とても詳しく知っているおじいさん。

ちょっといい話

三河地震の際に、形原町で医師をされていた方の震災体験記より(抜粋)

「その夜、私たちは子供を一名ずつ背負って妻と二人で暗闇をはうようにして、裏畠へ避難した。すると次から次へと倒れてゆく家屋の不気味な音、その間から泣き声、助けを求める声、親をさがす声、子をさがす親の声、明けはじめた暁の闇を通じて右往左往する人々の姿は全く地獄絵図であった。つぎの瞬間私は医師として、じっと避難していることもできず、看護婦にあるだけの衛生材料と外傷薬、注射などを持たせ、なお揺れている町に飛び出し、倒れている家に肝をつぶしながら、私は夢中で多くの負傷者に応急手当をして廻った。…重傷、要手術者、軽傷とわけて学校の教室を臨時治療室として軽傷者を治し、重傷者は蒲郡、豊橋、岡崎の病院へ輸送したものである。…」



## 三河地震の際の震災体験記から

三河地震の際に、形原町で被災された方(当時40歳)の震災体験記より

### 防災・減災のための 一口メモ

- 地域の被災傾向を知って、地震に備えましょう。
- 地域の地名の由来を知って、災害危険箇所を掴んでおきましょう。
- 先人の声(警鐘)に耳を傾けて、過去の地震の教訓を防災・減災行動に生かしましょう。
- 地震の大雨、洪水、高潮などによって、複合災害が起きています。地震以外の災害にも注意しましょう。
- 現代の有益なサービス(緊急地震速報、地域のメールサービスなど)を利用して、落ち着いて行動しましょう。
- 地震の際の危険な箇所を知って、避難行動に生かしましょう。
- 被災時には、まずは自分の身は自分で守りましょう。被災後は地域の方々と協力しましょう。

### 関連情報

■ 東三河地域防災協議会では、東三河地域沿岸域(豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市)を対象として、津波の歴史やその被害を受けた地区等について整理し、パンフレット「愛知県東三河地域における地震による津波の歴史」を作成・公開しています。  
<http://www.city.toyohashi.aichi.jp/bousai/tsunamirekishi.html>

■ 地震の際の体験談がまとめられています。  
「地震体験記録集—関東大震災・東南海地震・三河地震—」(愛知県)  
「東南海地震 三河地震 体験談集—大地震に備えて—」(西尾市)  
「わすれじの記 一三河地震による形原の被災記録—」(三河地震記念事業奉賛会)など(愛知県図書館、蒲郡市立図書館などでご覧になれます)

■ 愛知県では、県民の皆さまがインターネット上で簡単に大地震の際の自宅(木造)の様子の映像を観たり、地域の防災情報等を得たりすることができる「防災学習システム」を公開しています。  
<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp>

### この資料について

この資料は、「地域に残る地震の記録」などを知っていただき、地震をより身近に感じていただくことを通じて、県民の皆さまが防災・減災を考えていただくきっかけになれば、との思いから作成されたものです。

この資料を作成するにあたり、下記の方々のほか多くの方々のご協力・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

〔作成協力〕 [歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド委員会] 委員長:武村 雅之 委員:加藤 規博 隈本 邦彦 栗田 暉之 近藤 ひろ子 佐藤 克彦  
(敬称略) 鈴木 康弘 都築 充雄 服部 俊之 廣井 悠 福和伸夫 溝口 常俊 護 雅史 山中 佳子(50音順で記載)

### 歴史地震記録に関する情報を探しています。

この地域の過去の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などを探しています。ご存知の情報を下記までお知らせください。



## 災害を今に伝える史跡など

### 豊川市

#### 三豊川市の被災状況

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震では、小坂井付近は強震で家屋の倒壊があるなど大きな被害が出ました。明治24年(1891)濃尾地震では、宝飯郡で住家の全壊・半壊はあったものの比較的軽い被害でした。これはこの当時、豊川市域は人口が少なく、水田の多い沖積低地に住む人々も少なかったためと考えられています。昭和19年(1944)昭和東南海地震では、宝飯郡で家屋の全壊・半壊、道路の亀裂などがありましたが、被害は大きくなく、昭和20年(1945)三河地震でも、断層など地盤の変動が生じたにも関わらず被害は局地的でした。

このほか、豊川周辺の集落では、天文年間(1532-1555)に津波(高潮・洪水)が重なって大きな被害を受けています。

#### △照山

所在地:豊川市金沢(豊橋市賀茂)  
交 通:JR飯田線「三河一宮」より  
東 約3km

豊川河口部にある神社・寺院のうち11社寺が、天文年間(1532-1555)の津波(高潮・洪水)で流され、そのうちの7社寺が照山に流れ着いたと伝えられています。



#### ●御油町(御油宿)

所在地:豊川市御油町  
交 通:名鉄名古屋本線「御油」より  
北西 約1.5km

万延2年(1861)の地震により御油宿(現在の御油町)では、本陣などの建物が大破し、旅人の宿泊も出来ない状態となったことが、「新編豊川市史」に記載されています。



#### ▲東漸寺

地図 C6

所在地:豊川市伊奈町縫殿  
交 通:JR東海道本線「西小坂井」より  
西 約500m

前芝村に東漸寺という寺があったが、廃寺となり本尊の延命地蔵尊一体が小堂に祀られていた。ところが津波(明応元年(1492)以前)によりこの本尊の地蔵尊が伊奈の地に漂着したので、この地蔵尊を本尊とした」という言い伝えがあります。



#### △平井八幡社

地図 C6

所在地:豊川市平井町堀畠  
交 通:JR東海道本線「西小坂井」より  
南 約1km

天文年間の初期(1532頃)の大洪水によって社殿が流出し、加茂の照山の麓に流れ着いたと伝えられています。



## 災害を今に伝える史跡など

### 田原市

#### 三田原市の被災状況

田原市では、寛文2年(1662)寛文の近江・若狭地震、貞享3年(1686)の地震、明治24年(1891)濃尾地震、昭和19年(1944)昭和東南海地震、昭和20年(1945)三河地震などでは、建物被害を受けています。長慶9年(1605)長慶の南海・房総沖地震、宝永4年(1707)宝永地震、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震では津波による被害も受けています。このうち安政東海・南海地震では、崖崩れ、山崩れのほか、田畠への土砂流入、新田の沈下などの被害も受けています。



#### 田原城

所在地:田原市田原町巴江  
交 通:豊橋鉄道「三河田原」より北 約700m

かつての田原城は、城の周囲に海が入り込んでおり、湾が巴形になっていたことから「巴江城」とも呼ばれていました。「田原町史」などを参考に、地震の際の田原城とその周辺の被害の状況を要約すると、次のようになります。

**[寛文2年(1662)寛文の近江・若狭地震]** 田原城の櫓が崩れた。

**[貞享3年(1686)の地震]** 田原では、田原城の櫓、武家屋敷・町屋敷が倒壊し、死者もあった。

**[宝永4年(1707)宝永地震]** そろそろとゆれ出して、それがしばらく続き、その後大分強くゆれ出した。そのゆれはしばらく続いた。この地震で、田原城の城内、赤沢村、野田村、赤羽根村、池尻の川筋の村が大破した。

**[嘉永7年(1854)安政東海・南海地震]** この時の地震の被害は非常に大きく、桜門御の東側の石垣が崩れ、大きく東へ傾き、本丸入口(現在の巴江神社付近)の格子門脇の石垣も崩れ、本丸はじめ各郭の建物も大破した。この復旧工事は、万延元年(1860)までかかっています。



#### ●かいがらぼた A9

所在地:田原市堀切、日出  
交 通:豊鉄バス「堀切海岸」より  
海側すぐ

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震による津波を契機に、津波除けのために貝やかきの殻を積み上げていったので、「かいがらぼた」と呼ばれています。



#### ●常光寺 A8

所在地:田原市堀切町  
交 通:豊鉄バス「堀切」より  
西 約700m

宝永4年(1707)宝永地震、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震に関する史料が残されているなど、貴重な中世史料を所蔵しているお寺です。また嘉永7年の地震の際に、写真の石垣まで津波が押し寄せたといわれています。



#### ●若宮八幡社 B8

所在地:田原市赤羽根町  
交 通:豊鉄バス「赤羽根町」より  
東 約300m

若宮八幡社は、元禄16年(1703)の津波で移転し、その後、宝暦4年(1754)に現在地に移転したとされています(宝暦4年の移転理由は不明)。この場所には、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際に津波が来たとされています。



○地震・津波関係

●宝永 4年(1707)宝永地震

●昭和19年(1944)昭和東南海地震

●嘉永 7年(1854)安政東海・南海地震

●昭和20年(1945)三河地震

●明治24年(1891)濃尾地震

●その他(年代不明を含む)

▲高潮・波浪関係

## 愛知県における主な被害地震と気象災害



時代	愛知県の主な被害地震(赤は地域での影響が大きかったもの)	主なできごとと気象災害等
奈良	和銅8年[靈龜元年](715)5月、三河・遠江に地震。三河東部では、正倉(穀物や財物を保管する倉庫)の破壊、民家の埋没等の被害あり。	(694)藤原京に遷都、(710)平城京に遷都
平安	嘉保3年[永長元年](1096)11月、永長の東海地震。震源地は熊野灘沖。東海道沿岸では津波の被害あり。 保安5年[治元元年](1124)2月、尾張を震源とする地震。海東郡(海部地域)の甚目寺が地震で破壊。	(729)長屋王の変、(740)藤原廣嗣の乱(北九州)、恭仁京(京都)に遷都 (744)難波宮(大阪)に遷都、紫香楽宮(滋賀)に遷都→平城京(京都)に遷都→(794)平安京(京都)に遷都
鎌倉	—	(1083)後三年の役(~1087)
室町(南北朝)	—	(1124)中尊寺金色堂建立 (1185)屋島の合戦、壇の浦の戦い
室町(戦国)	明応7年(1498)6月、三河、強震。豊川の河流が変化。 明応7年(1498)8月、明応の東海地震。東海道地方に激震。紀伊半島から房総半島で大津波により大災害。浜名湖が外海とつながり(今切)、安濃津が陥没し海になったといわれている。 永正7年(1510)8月、尾張、三河に地震。定光寺(瀬戸市)で本堂大破。津波発生(高潮の可能性もある)。	(1467)応仁の乱おこる、(1493)明応の政変、(1497)大雨で豊川が大洪水 (1510)三浦の乱
安土・桃山	天正13年(1586)11月、天正地震。近畿から東海道にかけて大地震。家屋の全半壊400戸、死傷者多数に及び。真清田神社(一宮市)の楼門、回廊、社殿などが全半壊、岡崎城が破損。法性寺(あま市)なども倒壊。津島では大地震による田畠の陥没で約96ヘクタールが水没地になる被害あり。長島城(桑名市)も倒壊。 文禄5年[慶長元年](1596)閏7月、慶長伊予地震、慶長豊後地震、慶長伏見地震。尾張で強震。津波発生。	(1582)本能寺の変、山崎の戦い、(1583)賤ヶ岳の戦い、(1584)小牧・長久手の戦い (1586)大雨で木曾川が大洪水。河道が変化。尾張・美濃の沿岸地域で大水害 (1590)豊臣秀吉が天下統一 (1592)文禄の役(~1596)、(1597)慶長の役(~1598)、(1600)関ヶ原の戦い
江戸	慶長9年(1605)12月、慶長地震。房総沖と南海道冲に殆ど同時に大地震。津波は犬吠岬から九州に及び、各地で甚大な被害を受けた。片浜の舟も被害あり。	(1603)徳川家康、征夷大將軍となる (1605)大雨・洪水で尾張・三河ほかで被害 (1611)大坂冬の陣、(1615)大坂夏の陣
寛文2年(1662)5月、寛文の近江・若狭地震。近畿・東海地方大地震。家屋、人畜の被害甚大。犬山城石垣破損。田原方面の民家、田畠、河川等の被害も大きかった模様。 寛文6年(1666)4月、尾張・知多半島に津波が来襲し、新田を破壊。ただし、地震の記事がないため、地震津波が高潮かは不明。 寛文9年(1669)6月、尾張で地震。名古屋城の石垣崩れる。 延宝5年(1677)10月、延宝の房総沖地震。関東南部に地震があり、津波があった。震源は磐城沖。尾張にも津波があったといわれるが詳細不明。 貞享2年(1685)3月、三河渥美郡に大地震があり、山崩れ、家屋倒壊あり。人畜多数が死亡。 享永3年(1686)8月、三河・遠江で強震。震源地は渥美半島の北東端、または遠州灘。田原では、田原城の櫓、武家屋敷、町家等が破損し、死者があった。 元禄16年(1703)11月、元禄の閑東地震。関東・東海地方に大地震。津波により、渥美では死者が多く、船、網等が流失。知多でも人家の倒壊、流失多数。 宝永4年(1707)10月、宝永地震。津波、山崩れあり。人馬多数死亡。田畠に海水入る。町家、寺社、土蔵、堤防など破壊、橋が落ちる。地割れ、泥水噴出。	(1650)水害・大雨で木曾・長良・揖斐の三川が大出水し各所で破堤(大寅の洪水)、(1651)由井正雪の乱、(1657)明暦の大火 (1664)水害・大雨で矢作川の堤防が挙母村で破堤 (1666)大雨で庄内川が大出水し、尾張各所の田畠が水害 (1674)暴風雨、木曾川の洪水で尾張・美濃大水害(小寅の洪水) (1678)暴風雨で洪水で尾張藩領内の田畠・堤防・家屋に被害 (1687)水害・大雨で庄内川が出水	
江戸	享保3年(1718)7月、信濃・三河・遠江・山城の諸国で強震。三河吉田(豊橋市)では、被害の出たところがあった。 享保16年(1731)10月、大地震あり、荷之上、五之三村(弥富市)辺の田地から砂を吹く。刈谷で御城の堀が倒れる。	(1701)大雨で庄内川・矢田川・天白川・矢作川ほかで出水し大水害、渥美では新田の堤防が破堤、(1702)暴風雨で佐屋川水系、天白川の堤防が破堤、(1703)暴風雨で洪水。渥美の新田堤防が決壊 (1706)大雨で庄内川が大出水し、庄内川の堤防が破堤、(1707)富士山噴火、(1708)暴風雨で東三河の河川は出水。三河湾・伊勢湾で高潮
江戸	享和2年(1802)10月、尾張で強震。名古屋城本町門の石垣崩壊。本町西の松が倒れ、高壁が崩れ、堀に落込む。海東郡(海部地域)では、地割れして砂を吹出す。	(1716)享保の改革はじまる(~1745)、(1718)暴風雨で、渥美湾に高潮発生
江戸	文政2年(1819)6月、伊勢・美濃・近江・尾張に強い地震。震源地は近江・琵琶湖東岸。名古屋城の石垣がところどころ破損。城下ではところどころ土壩、築地が崩れ、寺院の門の倒れたものががあった。法花寺町常徳寺の門が崩れ、八事興正寺の塔損傷。石灯ろう・墓石の転倒回転したものも多い。葉栗郡(一宮市周辺)でも被害あり。	(1722)暴風雨で尾張・三河は甚甚災害。伊勢湾・渥美湾で高潮
江戸	嘉永7年[安政元年](1854)6月、安政の伊賀地震。尾張・津島では、牛頭天王神事の最中に大地震がおこり、市中は被損し、道路上、船中ともに負傷者が多く出た。	(1731)暴風雨で矢作川堤防が挙母村で破堤、(1732)享保の大飢饉
江戸	嘉永7年[安政元年](1854)11月、東海・近畿・四国地方にわたる大地震[安政東海地震・安政南海地震]。四日の地震の震源地は遠州灘東部、五日の地震の震源地は南海道沖。伊勢湾沿岸・三河湾沿岸・渥美半島の遠州灘沿岸で津波被害を受ける。多数の家屋が倒壊。城門・櫓・石垣・土蔵等大破。城下ではところどころ土壩、築地が崩れ、寺院の門の倒れたものが。山崩れもあった。道路はところどころ地割れを生じて泥を吹き出した。山からの大石の落下があった。矢作の橋柱が傾き、洪水のため流れ落ちた。海岸では津波により被害大。池決壊。	(1767)大雨で矢田川が破堤し、流路が変化(亥年の洪水) (1782)天明の大飢饉(~1787)、(1795)暴風雨で矢作川が流水(合歓の木切れ)、(1801)大雨で菅生川・青木川・矢作川の堤防決壊 (1802)暴風雨、伊勢湾沿岸で高潮。岡崎・額田で水害。三河吉田でも被害 (1819)名古屋とその周辺に連日雷雨。雷によって各地に火災発生、(1825)異国船打払令を発す (1821-1822)大雨で矢作川が出水。挙母村で破堤、(1823)大雨で矢作川が出水、(1833)天明の大飢饉 (1835)ペリー・浦賀に来る (1852)大雨で矢作川が出水。額田郡・幡豆郡で破堤(天白切れ)、(1853)大雨で庄内川が出水、東春日井郡で破堤
明治	明治24年(1891)10月、濃尾地震。震源地は揖斐川上流域。東海・北陸・近畿地方東部、特に美濃西部から尾張西北部にかけて記録的な大被害。家屋の倒壊、死傷者多数。山崩れ、陥没、地割れ、噴砂等の地変が多く見られた。	(1845)日米和親条約締結、大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤
大正	大正12年(1923)9月、関東地震。震源地は相模湾辺り。東京を中心に関東地方南部に大被害。壁が落ちた家、非住家の倒壊、煙突の倒壊、石碑・灯籠等の倒壊が、豊橋、新城、瀬戸、岩倉、刈谷等であり。	(1923)知多郡・東春日井郡でたつまき。台風による暴風雨。名古屋港で船の流失、堀川・新堀川で木材の流失、熱田で家屋浸水、愛知郡で山くずれ
昭和	昭和19年(1944)12月、東南海地震。津波あり。被害は静岡・愛知・岐阜・三重で多かった。死傷者、家屋の全半壊・流失多数。沖積地・埋立地で被害大。地	